



発行日 2019年8月1日

日本新聞労働組合連合 東京都文京区本郷2丁目17-17 井門本郷ビル6階 電話 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250 ホームページ http://www.shinbunoren.or.jp/ (年間購読送料共2000円) (組合員の購読料は組合費に含めて徴収しています)

労連役員 女性3割超



「女性枠」公募に8人 新書記長に月岡氏

労連結成70周年PTメンバー募集

新聞労働連は来月6月30日「仕事としてのジャーナリズムに結成70周年を迎える。こゝま(仮称)をまとめるプロジェクト」に伴い、新しい新聞・通信プロジェクトチーム(PT)のメンバーを全国の組合員から幅広く募集している。定期大会では、PTの提案者である中執の西村誠さん(共同労組)と「女性枠」のメンバー3人を交えたパネル討論を行った。(写真下)

西村さんは「新聞業界は若い人たちの人気がなくなっている。時代の流れの中でどういう働き方をし

ていきたいのか。私たちの意思を明らかにしていきたい」と狙いを説明。具体的なテーマとして、長時間労働やワーク・ライフ・バランス、ハラスメント対策などを挙げ、労連の作文ゼミに参加した学生にもヒアリングを行う意向を示した。



4単組に 組合企画賞

ユニークな単組活動を表彰する組合活動企画賞では4単組が受賞した。

●全下野労組：参加しやすい雰囲気のある組合大会を目指し、子どもと一緒に過剰な「キッズスペース」を設置

●共同労組：無期転換を会社に申し込んだ有期雇用社員に組織化し、春闘で待遇改善に取り組んだ

●中国労組青女部：家族に新聞社への理解を深めてもらうため組合員の子どもの会費に合わせた「職場参観日」を初開催

●愛媛労組：宮古新報労組の争議において、地連の枠を超えて書記長を1週間宮古島に派遣。整理業務支援などに当たった。(※宮古毎日労組が推薦)

26日に初会合 PTは8月26日午後初会合を行う予定。PT参加希望者は労連書記局(担当・加藤)まで連絡ください。

「去年は女性役員がゼロだった中、組合員から声が上がって、組合がその声を聞いて作った制度。相当画期的だ」と語った。

定期大会では、2018年度決算で単年度赤字を達成したことを報告。19年度予算の財政方針として、1人当たり月額610円(犠牲者救済金10円を含む)の労連会費を維持する一方

南彰委員長は「新聞業界で最も深刻なのは、危機を認識しながら自らを変えることができないという『組織の危機』だ。現場からのボトムアップで経営側へ理想の転換を迫る結果軸を持つ必要がある」とあいさつ。その第一歩として、「女性枠」創設による意思決定機関の改善を挙げ、「女性にとっても、男性にとっても

働きやすく、将来世代に魅力のある職場を作っていく」と訴えた。4〜7月に公募した「女性枠」には、全国の7単組から8人が応募。推薦委員会(委員長＝明珍美紀・元労連委員長)での確認を経た後、大会で全員が承認された。

推薦委員会(毎日労組)は委員長代理(毎日労組)は

女性中執・新役員顔ぶれ

今回、公募によって選出された特別中央執行委員は大会で抱負を語った。(写真右から順番)

神奈川労組・松島佳子さん(経済部、05年入社)「昨年、男性幹部がハラスメント被害者は社内外にいた。私自身がきちんと声をあげてこなかったことを後悔した。誰もが自分らしく働ける環境になるように力を尽くしていきたい」

毎日労組・中川聡子さん(統合デジタル取材センター、06年入社)「女性管理職が少なかったり、子育て中の社員が特定の部署に回されるのが続いている。同期も数多く辞めていった。こうした状況を変えていくことが新聞業界の発展にとって肝要だ」

北海道労組・芝垣なの香さん(経済部、07年入社)「女性活躍『男女平等』と書きながら、幹部を見ると男性ばかり。今回の女性枠は画期的だ。育児をしている人もしていない人も、男性も女性も、あらゆる立場の人が働きやすい職場を作りたい」

北海道労組・芝垣なの香さん(経済部、07年入社)「女性活躍『男女平等』と書きながら、幹部を見ると男性ばかり。今回の女性枠は画期的だ。育児をしている人もしていない人も、男性も女性も、あらゆる立場の人が働きやすい職場を作りたい」

北海道労組・芝垣なの香さん(経済部、07年入社)「女性活躍『男女平等』と書きながら、幹部を見ると男性ばかり。今回の女性枠は画期的だ。育児をしている人もしていない人も、男性も女性も、あらゆる立場の人が働きやすい職場を作りたい」

南日本労組・赤間早也香さん(報道部、06年入社)「記者の仕事がとても好きでやりがいを持っているが、その半面で葛藤もあり、仕事と生活のバランス

をとりるのが難しいと思いがら働いている。皆さんとたくさん意見交換をして、考えていきたい」

長野総局、04年入社「セクハラの問題は深刻。昨春の新聞労連の女性集いに参加して、ネットワークをつなぐことによつてすごくパワーされた。みんなで力を合わせて、いい変化を起こしていけるように力を尽くしていきたい」

関西合同ユニオン・谷富美子さん(京都労組書記として15年間、組合員の皆さんを支えてきた。変わろうとする組織の大きな議論のなかに、書記局や新聞社内、印刷工場で聞いた小さな声が生かされればと思う」

北日本労組・中川聡子さん(統合デジタル取材センター、06年入社)「女性管理職が少なかったり、子育て中の社員が特定の部署に回されるのが続いている。同期も数多く辞めていった。こうした状況を変えていくことが新聞業界の発展にとって肝要だ」

北海道労組・芝垣なの香さん(経済部、07年入社)「女性活躍『男女平等』と書きながら、幹部を見ると男性ばかり。今回の女性枠は画期的だ。育児をしている人もしていない人も、男性も女性も、あらゆる立場の人が働きやすい職場を作りたい」

- 堀江崇之(共同) 新
- 宇佐見昭彦(東京) 再
- 高津和也(新潟) 再
- 松永喜代文(大説) 再
- 斎藤肇平(神戸デ) 再
- 小島正和(中国) 再
- 山内拓郎(愛媛) 新
- 高津公一(西日本) 再
- 慶田城七瀬(琉球) 新
- 水澤健一(朝日) 再
- 尾崎正典(朝日) 再
- 吉岡宏二(毎日) 再
- 美和孝(毎日) 再
- 本田克樹(読売) 再
- 玉木淳(日経) 再
- 会幹幹事
- 河野雄也(新潟) 新
- 選出中(神奈川)

結集軸を

第134回定期大会では、11人の代議員が発言した。以下、発言要旨。

山陽労組 (田淵信吾)
別会社化反対の組合方針を理由に、組合員2人を不当配転した争議について。2018年4月に県労委に救済申し立てしたが社は同5月に配転を強行。言論機関の新聞社で言論を封殺

大会発言要旨

長時間労働「是正に知恵を」



田淵 (山陽労組)



伊佐 (宮古新報労組)



宮古新報労組 (伊佐次郎)



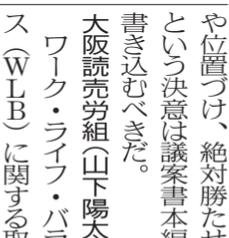
眞 (沖縄地連)



山本 (東京労組)



山下 (大阪読売労組)



浜名 (読売労組)

し権利を侵害する人事が行われることは許せない。これが許されたら組合活動の担い手はいなくなる。5月に証人尋問を終え、7月5日から和解協議も行っている。11月頃命令交付の予定。結審は8月7日だが、同日2回目の和解協議も行われる。この日に合わせて早期解決を求める宣伝行動を行う。全国の皆さんに参加いただきたい。

1月10日、社からの一方的な解雇通知以来、新聞労連や沖縄マス協、地元宮古の仲間の支援を受けながら組合で新聞発行を継続して闘い、新たな経営体制での再建を勝ち取った。皆さんの支援に感謝する。「宮古には2紙必要。頑張るといふ市民からの激励も受け、負けるわけにはいかない」といって頑張ってきた。

4月から新経営体制で発行、新就業規則の交渉も始める。6月30日の報告集会で全国の仲間から「これからは勝負」と激励を受けた。働く者の権利と新聞社の使命のために頑張りたい。

琉球・沖タイ両社の印刷協業別会社化について。当初の予定では今年7月から新社を作って希望者を転籍させる予定だったが、両社の会社間交渉がストップ。ようやく今月から交渉再開となり遅れている。新

会社での働き方の概要や、転籍の日程が決まらない。沖タイ社は転籍が遅れて退職金等で不利益が出ないよう独自に暫定子会社を設立、希望者をそちらに転籍させた。沖タイ労組も就業時間等を変更しない等の条件で交渉、合意したとのこと。引き続き両労組で情報交換しながら転籍者の労働条件を守りたい。

東京労組 (山本親弘)
非正規雇用の従業員が無期転換され、パートナー社員(限定正社員)に。現在約90人中2人が私たちの組合員。残る八十数人は労連非加盟の中日労組に加入し、賃金水準は無期転換前とほぼ変わらず、正社員より大幅に低い。格差是正が改正労契法の立法趣旨だが、会社は逆に格差を広げている。中日労組はパートナー社員の一時金で交渉するとさらにながら恐れがあると述べている。詳細は別紙に譲る。各争議の重要性

や位置づけ、絶対勝たせるという決意は議案書本編に書き込むべきだ。

大阪読売労組 (山下陽太郎)
ワーク・ライフ・バランス(WLB)に関する取り組みについて。組合員の命と健康を守る取り組みは組合の使命だ。どうしても長時間労働になる職場をどうすれば是正できるのか。組合としても知恵を絞りたい。労使で開くWLB協議会で「WLB大賞」の表彰を行っている。成果の上から紹介し他職場でも取り入れてもらうのが狙い。

新聞労連でも産業全体での取り組みの共有を担ってほしい。働き方ハンドブックの定期的な改訂、シンクタンク機能のさらなる強化をお願いする。

読売労組 (浜名恵子)
女性の組合活動参加について。昨年の大会で女性比率3割を目指す方針が掲げられた。そして今回、中執行部が率先して取り組むのは評価できる。しかし、どう数を増やすかの議論が先行し、どうしたら女性が参加しやすい組合活動になるかの議論が後回しになっていないか。子育て世代に配慮し宿泊を伴う会議の開催見直し、テレビ会議の導入などが検討し、誰でも参加できる効果的な活動に見直す。組合活動においても「働き方改革を進めるべきだ。労連が率先して取り組むべきだ。」と述べた。

定期大会宣言

新聞労連の旗のもとに集う私たちは、7月24、25の両日、東京・浅草で「ネクストジェネレーション 誰もが働きやすい新時代の新聞業界を目指して」をメインスローガンに、134回目となる定期大会を開きました。南彰委員長はあいさつで「将来世代が魅力を感じられるような持続可能な環境をつくっていきましょう」と訴えました。

賃金や各種手当の見直し・削減などが加速し、将来に不安を覚えた若手組合員が離職するケースが続いています。また、「男性稼ぎ主モデル」を中心に組み立てられた日本社会のなかで、新聞業界においても、長時間労働を前提にした無理な働き方を強いられ、ハラスメント等の人権侵害や、多様性をないがしろにする風潮が少なからずありました。時代が変化しているにもかかわらず、経営側の提案は過去のモデルに縛られがちです。私たちは、「男性、女性を問わず、あらゆる人が将来にわたって働きやすい新時代の職場環境」を目指すため、現場からのボトムアップで経営側に発想の転換を迫る結集軸を持つ必要がある。こうした考えを2019年度運動方針に盛り込みました。

その第一歩が、男性に偏りがちだった意思決定の場のジェンダーバランスの改善です。新聞労連は1月の臨時大会で、公募による「特別中央執行委員(いわゆる女性枠)」を設ける規約改正を行い、女性の役員を大幅に増員する仕組みを作りました。今回の定期大会では、全国から応募した8人の女性を特別中央執行委員に選出し、既存枠の内定者を含めると、女性役員が3割以上となる見通しです。これまで以上にさまざまな意見を取り入れ、多様性と活力のある職場づくりを目指します。

この1年間の新聞労連の活動で画期的だったのは、「宮古新報」をめぐる闘いです。セクハラ・パワハラを繰り返すことの責任を追及された社長が一時的に社員全員の解雇を通知しましたが、新聞労連の加盟単組・地連が一丸となって取り組み、労働組合による新聞の自主発行を続けた末に事業譲渡にこぎ着け、全員の雇用確保・紙面発行継続を勝ち取りました。人権侵害であるハラスメントと決別し、読者のための情報発信へ取り組むという倫理観や使命感は、読者・市民の共感を呼び、私たちも新聞の価値・存在意義を改めて実感することになりました。宮古新報労組の伊佐次郎委員長は「これからは勝負。組合にはやるべきことが多くある。頑張っていきたい」と今後への決意を語りました。

このような闘いを支えるのが、新聞労連のネットワークです。取材中の記者に対する暴力や質問制限、報道への「捏造」というレッテル貼りや記者への中傷など、日本のジャーナリズムを取り巻く環境も厳しさを増しています。記者個人や個々の会社の問題ではなく、ジャーナリズム全体に対する攻撃と受け止め、一緒に闘っていくことが大切です。今大会では、組織拡大「チャレンジ100」プロジェクトの推進・強化を確認しました。労連未加盟の新聞社の組合や関連会社の既存組織に呼びかけを行い、関連会社の従業員や非正規労働者の組織化を進めていきたいと思います。

新聞業界はいま、業界環境の激変に伴う「ビジネスの危機」、メディアへの「信頼の危機」、硬直化した「組織の危機」にさらされています。とりわけ深刻なのは、危機を認識しながら自らを変えることができないという「組織の危機」です。「斜陽産業だから仕方ない」「向こう10年は大丈夫」といった経営陣の無責任な声に屈することはありません。2020年6月の新聞労連結成70年に向けて、次世代のために叡智と熱意を結集し、現場からのボトムアップで危機を乗り越え、夢と希望を語れる業界を築き上げていきたいと思います。

2019年7月25日
新聞労連第134回定期大会

賃金減などの会社提案調査 労連がアンケート

人件費削減につながる提案が相次いでいることを受け、労連本部は24日の大会で、各単組での取り組みを共有するためのアンケートへの協力を呼びかけた。加盟全単組から8月中の回答を求め、9月の執行部セミナーで活用する予定だ。

基本給▽時間外・休日割増手当▽家族手当▽社会保険料負担割合等について、それぞれ会社側の提案内容と交渉経緯を集約する。メール、FAX、グループフォームの3種類で回答できる。詳しくは担当・伊藤(近畿地連)まで。

中日労組員ら 連帯あいさつ

今定期大会では、1日目に日本マスコミ文化情報労組協議会(MICC)の酒井かをり副議長(出版労連委員長)▽日本放送労働組合の中村正敏委員長▽連合の山根木晴久・総合組織局長▽全労連の長尾ゆり副議長▽全労協の渡邊洋議長が来賓としてあいさつ。「女性枠」選出を行う2日目にも、6月のILO総会に出席した連合の井上久美枝・総合男女・雇用平等局長が駆けつけた。

井上氏は「女性も主体的に労働運動に関わってほしい」という風穴を開ける第一歩が今日の歴史的な大会だ。女性が労働組合に参画することが結果として男性の働き方を変えることにもつながると思う。長尾氏は「昨年4月の新聞労連女性集会の『セクハラに我慢するのほらもうやめよう』というアピールを読んだときに涙が出た。ハラスメントのない職場を一緒に作っていきましょう」と述べた。

また、首相官邸に記者会見での質問制限を受けている中日労組(労連非加盟)の望月衣子記者も1日目の大会に出席。「今(官邸)記者会見で、質問ができていないのは、新聞労連の皆さんが救いの手をさしのべてくれたから。皆さんの連帯がこれから民主主義を根付かせていく大きな力になる。これからも連帯していききたい」と述べた。

むい(田淵裕美) 合同ユニオン(田淵裕美)

合同ユニオンでは朝日新聞関係で2件、団交を行った。朝日総合サービスでのマタハラ問題と、朝日新聞社の短期年俸制社員の雇止め問題。

朝日新聞社で短期年俸制社員という形でWEBデザイナとして働いていたが、昨年9月に雇止めにあつた。無期転換逃れの脱法的行為だ。現在、原職復帰を目指して団交を続けている。

将来見据え



月岡新書記長による団結ガンバローで定期大会を締めくくった

労連大賞「専門紙部門の創設を」

建設工業労組(辰巳裕史) 新新聞大賞に専門紙部門を設けてほしい。専門紙ジャーナリズムの確立や発展に寄与する記事の表彰制度が欲しい。専門紙の記事には業界内にとどまらず社

会全体に問題提起するものや、2000回以上の長期連載で働き方などの問題に迫るものなど光るものは多い。新聞協会に相当する日本専門新聞協会も賞は設けていない。専門紙でも離職する

若手が多いが、目標をもって仕事ができれば定着してくれるのではないかと期待もある。労連加盟の各専門紙労組にも訴え、思いを共有したい。本部にも前向きな検討をお願いする。



辰巳(建設工業労組)

高知新聞の受託印刷が決まる中、高知新聞労組から組合を作ったどうかと誘われ、高知労組、四国地連、そして新聞労連の支援を得て結成した。



吉本(高知印刷労組)

6月18日に最初の口頭弁論があった。長崎市は争う姿勢。市は日弁連からの勧告も受け入れていない。今後、長崎マス共としても支援する。2回目の弁論は8月19日。原告一人で闘うのではなく、声を上げた人を一人にしない闘いをしたい。被害者が声を上げるのには勇気がいる。市という行政は巨大。そういう組織を相手に闘っていくためには皆の力が要る。全国からの支援をお願いしたい。



山口(長崎労組)

中国労組(和田木健史) 特別中執について。中国労組からも選出される。職場は繁忙感が増すが賃金が上がらない。業務のスクラップも進まない。そして離職者が相次ぐという負のスパイラルに陥っている。皆が働きやすい、離職を考へる人が出ないような職場づくりに向けて、立場が違っても譲り合いながら前向きな議論を期待したい。



和田木(中国労組)

新任あいさつ

受けた支援に恩返し

新書記長 月岡岳

愛媛新聞労組の月岡岳です。これから本部書記長を務めさせていただきます。役員が出るのは初めてです。僕自身はもともと、単組としてもそのような力量はないと思っています。

その中で、書記長を受けた大きな理由として、2001年定期大会の議案、発言に

務めさせて頂くことになりました。愛媛労組から本部役員が出るのは初めてです。僕自身はもともと、単組としてもそのような力量はないと思っています。

あるように現在、各地連単組には多くの課題があると思います。少なくない仲間が闘争を展開しています。また、現在の本部は「女性枠創設」「将来世代が魅力を感じられる持続可能な環境づくり」など多くのことに取り組んでおられます。それが、よりよい方向に向かうよう微力ながら、活動していきます。任期中、よろしくお願ひします。ともにがんばりましょう。

9月8日に大会を行い、11月10日に高知市内で10周年の記念行事を開くべく議論を進めたいと考えている。毎年、大会には全国の仲間からメッセージを頂いている。10周年にもぜひお越しいただきたい。私は結成以来10年間委員長。10年間は結成時の公約だった。今、もう1期で次世代につなぐ。今後も支援願ひたい。

長崎労組(山口栄治) 長崎市幹部による性暴力

1950年に誕生した新聞労連の長い歴史の中で、争議や弾圧をくり抜けた単組は多々あります。私たちの先輩方は争議が起きる度に全国の仲間が集結し、難局を乗り越えて来ましたが、様々な結末、また多くの紆余曲折から生まれた記憶と記録を残し、今に続いていきます。これからも2万人の組合員の仲間と共に団結して頑張っていきたいと思います。

相川書記長・討論のまとめ

質疑討論には、11人の代議員から発言をいただいた。山陽の異職種配転の救済申立は、証人調べが終了し、8月7日に結審を迎え、和解協議が予定されている。同日、岡山県労委・審問傍聴・宣伝行動を行い会社の不当性を強く訴えていく。全国からの参加を呼び掛ける。社長退陣を実現して終結した宮古新報は今後再建闘争に切り替えることになり。新生「新報」の取り組みに注目してほしい。読売から特別中執創設に

女性向け会議の一新急務

男女問わず参加しやすいシステムづくりを考えていく。

大阪読売の情報共有について。高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

高知印刷の結成10周年は大変喜ばしい出来事。2年前のENPプリント労組結成を思い出した。印刷部門の労組を引っ張っていくリーダー的存在であってほしい。

退任あいさつ

仲間の支え実感

前書記長 相川 和男



2年間にわたり新聞労連の書記長として、全国の皆様には大変お世話になりました。こうして無事に、役員の任期を満了することができました。心より御礼申し上げます。未熟な点や、至らなかった点など

ので、今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。2年間にわたりまして、役員の仕事を通じてきたことで、いかにして全国の加盟組合員のみなさまによって支えられていたのかを実感することもできました。想像していた以上に大変だと感じてことも少なくありませんが、皆様から本日を迎えることができました。過ぎてしまえば早いものですが、充実した時間を過ごすことができました。

2018年度、一緒に活動された皆様、1年間大変お世話になりました。皆さんと時間を共有できたことを本当に嬉しく思います。例えば、2018年5月GW明けのある日、単組内で労連副委員長がストの打診

を受け、躊躇しつつも断つたら、後で後悔するだろうと思ひ引き受けました。今、任期を終えて振り返ると、自身の力不足を痛感しています。例えば中執会議の場で皆さんが、高い見識を持ちつつ会議に臨み、活発な議論を展開していたこと。自身の考えをわかりやすく説明していたことなど。単組内の団交、各委員会しか知らない私は、学ばせていただきました。

最後に後押ししてくれた全下野新聞労組、職場の管理職と同僚、1年間支えてくれた家族に感謝し、挨拶に代えさせていただきます。

1年間の活動に感謝

前副委員長 杉山 恵一



2018年度、一緒に活動された皆様、1年間大変お世話になりました。皆さんと時間を共有できたことを本当に嬉しく思います。例えば、2018年5月GW明けのある日、単組内で労連副委員長がストの打診

を受け、躊躇しつつも断つたら、後で後悔するだろうと思ひ引き受けました。今、任期を終えて振り返ると、自身の力不足を痛感しています。例えば中執会議の場で皆さんが、高い見識を持ちつつ会議に臨み、活発な議論を展開していたこと。自身の考えをわかりやすく説明していたことなど。単組内の団交、各委員会しか知らない私は、学ばせていただきました。

広告離れの打開策探る

営業職懇「働き方」報告

販売・広告・事業の各職場に所属する組合員を対象とした営業職場全国集会在、7月5日都内で開催され各単組から35人が参加した。

集会では、2つの講演のほか、パネルディスカッションが行われた。基調講演では、電通メディアイノベーションラボ・メディアイノベーション研

究部主幹の北原利行さんに「今後の新聞社はどうあるべきかー広告・販売戦略の在り方を考える」と題して話してもらった。新聞業界だけではなく、他媒体の

例も含めて、メディア全体の現状を解説し、各社の成功事例を挙げながら「地域の人々が必要なのは何か。そこを知ることをビジネスにつなげる」と提言し

た。続いて、「営業部門の働き方改革」と題し、神戸デイリー労組執行委員の上野傑さんが講演。自身の勤務する「神戸デイリー新聞社」のフレックス制度の導入事例やテレワークに関する現状を報告した。特に振替休日の未消化にあたっては「職場で休み事例を作り、慣例化する。同僚にも背中で見せることが大事」と話し

た。最後のパネルディスカッションでは「営業部門全体の現状と課題」をテーマに、上野傑さん、藤村洋介さん(西日本新聞労組執行委員)、高津和也さん(新潟日報労組特別執行委員)の3人のパネリストが登場。クライアントの新聞広告離れの打開策や読者を増やすための取り組み、また、若い世代向けにはSNSを使

った手法を議論した。そのなかで、クライアント、読者と我々のズレを修正することから、顧客の満足度を見直すことが必要との意見が出された。

3割を達成できる見通しとなったことを紹介。「女性の意見を反映させるだけでなく、組合員全体が参加しやすい活動に変えていきたい」と語った。

19年度の活動方針案では、12月に道地連がホスト役を務める四地連共闘会議をはじめ、年3回の常任委員会、室蘭民報労組がホストとなる春闘討論会・地域紙共闘会議を来春に開催することに同意した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。



宮古勝利集会に50人

「廃刊阻止は70年代以来」

沖縄・宮古新報労組(伊佐次郎委員長、13人)の争議勝利解決を受け「社長退陣・廃刊阻止・自主発行・事業譲渡成立」報告集会が6月30日、宮古島市内のホテルで開かれた。約50人が参加し、当該組合からも最後まで闘い抜いた10人中7人が出席した。

集会では宮古新報労組の伊佐次郎委員長が「闘った」という勇ましいがきつかった」と振り返り「4人建てに減らした紙面が、今は

通常8〜10、週1回は12人で建てて盛り返した」と謝辞を述べた。

続いて上部団体から「廃刊やむなしの流れの中、納得いかない1人が声を上げ組合が立ち上がった。仲間と団結し、困った人に寄り添える新聞に(南彰労連委員長)、「闘争まで数人で活動し続けてきた歴史がある」との勝利(鈴木実沖縄県マスコミ労協議長、「受け身ではなく新会社に提案できる組合に(砂川拓也沖縄

争議報告では通算59日間、支援に入った加藤健労働書記次長(争議弾圧対策部長)が「全員解雇された組合が廃刊を阻止させた闘いは70年代の日本海新聞の闘争以来ない」と意義を強調。記者から配達員まで雇用の地域紙の特性が功を奏したと振り返った。最後は伊佐委員長の「団結カンパロー」で締めくくった。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

活発な議論が行われた営業職懇

報告する宮古の平良喜美子さん

山陽労組争議で和解協議

8月7日に審問終了

山陽新聞労組の委員長と副委員長の2人を、組合方針を理由に印刷職場から排除した不当労働行為事件の

和解協議が7月5日、岡山県労働委員会で行われた。二人のうち加賀副委員長は、定年退職が来年2月に

迫っており、一刻も早い解決と職場復帰が求められる。協議は労使別々に委員が主張を聴取る形で進め

られ、この日は和解には至らなかったが、引き続き協議を継続するとして、次回日程を8月7日とした。

同日の審問にあわせ、市民・社員に向けた宣伝行動も予定している。傍聴と合わせて多くの仲間の参加を

願う。また、新聞労連は7月5日、県労委に対し公正な命令を求める団体署名83団体分を提出した。5日以後の集約分は8月7日にまとめて提出する予定。未提出の単組は早めの提出をお願いします。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

北海道・関東で定期大会

新委員長に 則本氏選出

北海道地連

新聞労連北海道地方連合(道地連)第58回定期大会が7月13日、札幌市中央区の北海道新聞社で開かれた。

2019年度活動方針案や予算案などを承認し、則本晃新委員長(北海道新聞労組)を選出した。

大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

千葉日報から 次期委員長選出

関東地連

関東地連の定期大会が7月12、13の両日、群馬県渋川市伊香保町の温泉旅館、ホテル木暮で開かれた。ホストの上毛新聞労組を中心とした地連加盟各単組から約40人が出席。「新聞業界で自信と誇りを持って働けるよう、一層の団結を深め、労働条件の改善を求めてい

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

平和大使のミュージカル 8日〜12日

核兵器廃絶の署名を国連に毎年届ける長崎の高校生平和大使をテーマにしたミュージカル「Signs」(サインズ)が8〜12日、東京・渋谷区文化総合セン

ターで上演される。主催は労連元書記の田中広喜さんが率いる劇団「ミュージカル・ギルドa」。長崎新聞が後援している。AKB48元メンバーで女優の岩田華怜さんが主演を務

め、作品を通して被爆体験の継承や反核運動の在り方を問い掛ける。チケットは電話(0120-240-540)またはオンラインで予約を受け付けている。

【北海道新聞労組・則本晃】大会には牧之段英樹委員長(北海道新聞労組)ら18年度役員と代議員19人が出席。新聞労連の南彰委員長も来賓として臨席した。

